

いよいよ後期のスタートです！ 1年次も折り返し地点 新たな決意を胸に充実の後期を過ごしていこう！

今年は9月に入ってから、この夏の猛暑が嘘のような涼しい日々が続きました。いよいよ季節は10月、空気は一段と澄みわたり、赤や黄色に色づき始める木々からは確実に秋の訪れを感じることができます。

みんなにとってこの秋はどんな秋としたいですか。秋は「スポーツの秋」「芸術の秋」「食欲の秋」など、様々に例えられます。確かに今月からは体育局各部の新人大会、文化局各部の祭典である芸術文化祭など、「スポーツの秋」「芸術の秋」にふさわしい行事が目白押しです。また「食欲の秋」ということでいうと、今年は秋の代表的な味覚である「秋刀魚」「松茸」などの豊漁・豊作が期待できるそうです。



さて、そんな数々の秋がある中で、私がお勧めするのは「読書の秋」です。この言葉の由来は、中国・唐代の文人である韓愈（かんゆ）が、「燈火（とうか）親しむべし」（秋は涼しくて、夜はあかり（燈火）を灯して読書をするのに最適だ）と言ったことにあるそうです。実際、秋は気温が18度くらいとなり、脳の活動に最適な温度になります。また「秋の夜長」という言葉があるように、秋は1年で1番夜の時間が長くなる時期でもあります。そんな涼しく長い夜を過ごすのに読書はぴったりだと昔の人も思ったようです。では、なぜ読書なのかというと、本には、先人たちの知恵や知識、史実から思想、空想まで人類のあらゆる叡智が詰まっているからです。本を読むことで、自らを成長させる知識を身につけることが出来、本を読まないことは、その機会を逃がすことになってしまいます。そして読書の一番のポイントは、豊かな想像力を育むことが出来ることです。確かにテレビやインターネットの動画などといった映像メディアからも知識を得ることはできます。しかし、映像からは豊かな想像力は養えません。一方、本はそれを読んだヒト一人ひとりが自由に想像力を発揮することができます。そしてこれこそ、他の動物にはまねの出来ないヒトだけの能力です。ヒトがヒトたる由縁である想像力を鍛えるためにも、ぜひ積極的に本を読みましょう！



保護者のみなさまへ

1年次の折り返し地点・・・甲府西高校に入学して半年が経過しました。いよいよ、1年生も折り返し地点に差し掛かりました。今月から来月にかけては運動部所属の生徒は新人体育大会、文化部所属の生徒は芸術文化祭といったように部活動の大きなイベントが行われます。一方これからの3か月間は、高校3年間の中で一番成績の変動が大きい時期だとも言われています。なぜなら、この時期は学習内容の難易度と進度が加速度的に増してくる時期でもあります。我々教員一同、生徒一人ひとりに気を配りながら指導を行っていく所存ではありますが、御家庭においてもお子様の学習への取り組み状況に気を配っていただければと思います。特に、秋の夜長をきっかけに、学習を含めて生活全体が夜型のリズムに陥ってしまう生徒が出はじめるのもこの時期です。夜更かしは翌日の授業の集中力の妨げとなり、体調を崩す原因でもあります。過度な夜型にならぬような声かけをお願いいたします。

2年次の履修本登録・・・来月が履修本登録になります。文系・理系のコース選択や選択科目など、お子様の進路希望を踏まえて、よく考えて御提出ください。何か御質問されたいことや御相談されたいことがある場合は、早めに担任まで御連絡していただくようお願い申し上げます。

ウォーキング大会・・・10月10日（水）に第22回健康の森ウォーキング大会が実施される予定となっております。保護者の皆様には、補助員として多数の御協力を賜りますこと感謝申し上げます。秋の爽やかな日差しの中、ウォーキングに汗を流す生徒たちの様子を御覧いただければと思います。

【10月の予定】

日	曜	主な行事	日	曜	主な行事
1	月	行 球技大会 きすなの日 自転車ステッカー点検週間	17	水	A
2	火	A 後期始業式、短縮55分授業、(球技大会予備日)	18	木	A 外務省高校講座
3	水	A	19	金	A 短縮45分授業、報告会・生徒総会
4	木	A 健康の森ウォーキング大会事前健康相談	20	土	新入大会
5	金	A 健康の森ウォーキング大会事前指導	21	日	新入大会 駿台ハイレベル模試(外部)
6	土	土曜講座	22	月	B
7	日		23	火	B 短縮50分授業、大掃除
8	月	体育の日	24	水	B
9	火	B 生徒協議会	25	木	B 授業公開
10	水	行 健康の森ウォーキング大会 PTA 正副会長会議	26	金	B キャリアガイダンス(職業編)
11	木	B (健康の森ウォーキング大会予備日)	27	土	
12	金	B 第2回生活実態調査、第3回同窓会理事会	28	日	
13	土	土曜講座	29	月	A
14	日		30	火	A
15	月	A きすなの日	31	水	A 冬季原付免許取得説明会
16	火	A			

【先生方からの寄稿】

今月より6回連続で、各クラスの担任・副担任の先生方からの寄稿を掲載いたします。トップバッターは1組の担任・副担任の先生方です。

飛行機と滑走路 あなたの夢は…?

1組担任 志村 かおり

晴れた日に空を見上げると、白い飛行機が青い空の中を時には機体をきらめかせながら飛んでいるのを見ることがあります。羽田空港や成田空港への発着便は富士山を目標として飛ぶと聞いたことがあります。もしかすると山梨に住んでいる私たちは、他の地域の方々より飛行機を見る機会も多いのかもしれませんが。しかし山梨県の上空を飛んでいる飛行機はとても小さく見えますが、実際は、ボーイング777-300ERという機種で、全長73.9m、重量183トン(乗客や荷物を入れると390トン)にもなります。その大きく、重い飛行機が、なぜ飛ぶことができるのでしょうか。それは、飛行機が滑走路を走り機体を上昇させ、その後エンジンによって前に進もうとする力(推進力)が機体の受ける空気抵抗よりも大きくなり、翼の上と下で空気の流れる速さを変えることにより重力より大きな揚力が生じるからなのです。

あなたの将来の夢は何ですか。高校卒業後どのようになりたいと考えていますか。1年次生の皆さんは多くの才能に恵まれ、いろいろなことに挑戦できる力を持っています。多くのことにどんどん挑戦してほしいと思います。ではここで、先ほどの飛行機を皆さんの夢、もしくは受験だとします。滑走路は、夢を叶えるための準備期間、受験で言うと勉強時間ということになります。実際、滑走路の長さは飛行機の大きさに比例して長くなり、それなりの長さが必要になります。先ほどの飛行機は国際線では3000m程度の滑走路が必要になります。あなたの夢が大きければ大きいほど長い滑走路が必要ということになります。つまり早く準備を始める必要があります。多くの推進力と揚力を備えている皆さんのことですので、滑走路の長さを確保できれば高く、遠くまで飛行することができます。大空に優雅に浮かんでいる飛行機を思い浮かべ、自分の力を信じ、滑走を始めてください。

正しく学び、正しく怖れる

1組副担任 齋藤 久人

大地震に豪雨に台風、この夏は大きな天災が相次いだ。被害にあった方々には心からお見舞い申し上げたい。僕自身も宮城で教員をしていた頃、東日本大震災を経験した。山梨に戻ってからよく「その時の話を聞かせて」と言われるが、感情が入り交じり上手く話せない。ただ今回の天災のニュースに触れ、「高校生に語るとしたら」と考え、一つのことを書く。それは「正しく学び、正しく怖れること」の大切さだ。

大震災後、知り合いの先生が生徒を連れフィールドワークを行った。その中で、海から離れた内陸部で千年ほど前の津波被害を伝える石碑を見つけた。それは、今回の震災で津波被害に遭遇した最深部とほぼ一致した。過去の人々はきちんと津波の怖さを後世に伝える形で残していた。現代人がそれに気づかず「こんな場所まで津波は来ない」と思い込んでいた。その研究は話題となり、生徒達は様々な場でそれを発表した。

もう一つ。震災の翌年度に三年を担当した僕は、推薦希望の生徒に「今年は大震災に関連したテーマが出されるかも」とそれに関する小論文を書いてみるよう促した。すると、工業系希望の生徒に浮上式防波堤や免震システムなど教科書にない最新技術について調べ、書く者がいた。彼等はただ大学合格を目指すのではなく、大学で将来の大災害に備えるための知識を学び、役立てたいという意志を語っていた。震災の心の傷を抱える者が多い中、そうした知識に触れ、そうした生徒と対話できたことで、こちらも随分と勇気づけられた。

未曾有の天災を目の前にすると、時に人は怖れや哀しみなどの思いに振り回され、「学ぶこと」の意欲を失いがちになる。だがそうした天災の前にも後にも、過去から学ぶこと、未来のために学ぶことはまだまだ多くある。災害に心痛めることも大切だが、「学びの最前線」にいる高校生達は、災害に対しても「学び」で立ち向かう姿勢を忘れないで欲しい。